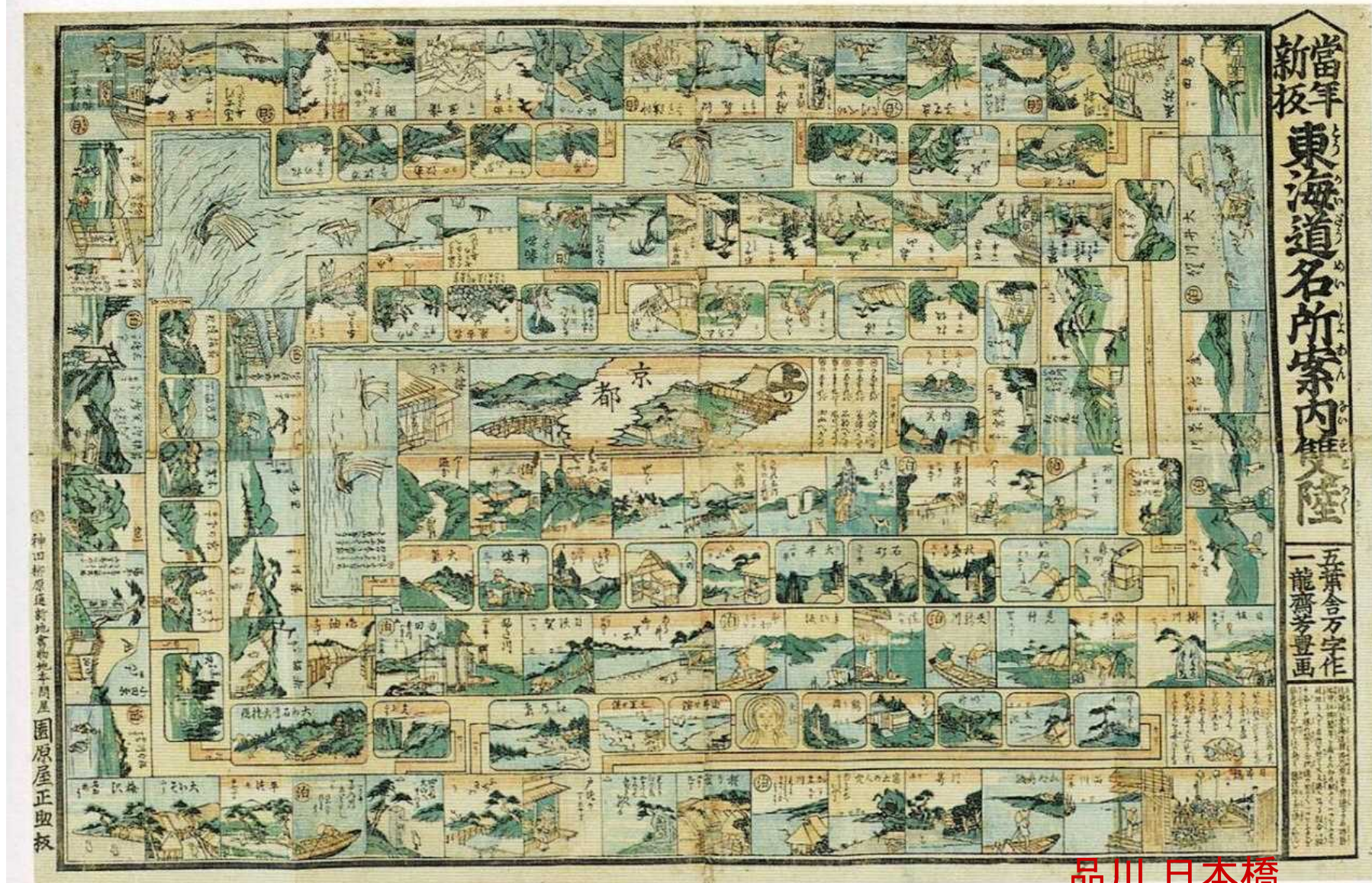


行動計画のシナリオの動かし方

事例：品川宿(旧東海道)



品川 日本橋

東海道名所案内双陸 歌川芳豊(初代)

行動計画のシナリオの動かし方

事例：品川宿(旧東海道)



浮絵 品川澳高輪廿六夜待之図 北尾重政



伊能図に描かれた東海道

行動計画のシナリオの動かし方

事例：品川宿（旧東海道）

- ・1988年「旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会」 発足



- ・1995年「東海道品川宿周辺まちづくり計画書」（区と協働で作成）
お休み処整備、石畳舗装、ファサード修景
「松」「桜」「石」をつなぐ
街道ネットワーク⇒「街道松」の寄贈（浜松・三島）
まち歩きマップ 有料版＋無料版 など



- ・2010年 「品川区景観計画」の重点地区として位置づけ
地元と協働で景観アドバイザー制度による建築物の景観誘導





1995(平成7)年 東海道品川宿周辺 まちづくり計画書 表紙

はじめに(抜粋)

① 協議会メンバーの意識 から生まれた理念

② 自分達の手による計画

③ 開かれた組織

① 私たちが住むこの品川のまちは、歴史と文化に彩られた人情あつまちです。まちづくり協議会では、このすばらしい環境を後世に伝えていくまちづくり活動として、2年前に「みこしだこを伝えるまちづくり」という基本的な考え方を示しました。

この考え方は、さらにその2年前に取りかかった「まちの宝物さがし」を進める中で、まちづくり協議会のメンバーがまちの人たちと接触を重ねていく間に、強く意識し始めたものです。

ですから、私たちまちづくり協議会の土台は、過去4年間の活動の積み重ねによって、強固に築かれてきたのです。

そしてこの土台の上に立って今年度は、具体的な形に移す計画づくりに取り組みました。まず、

1. お休み処の整備
2. まち歩きマップの制作、まちの案内看板の整備
3. 水辺空間の活性化
4. 芝居小屋
5. セピア色の写真展の準備

という5つのプロジェクトを組み、それぞれ計画の具体化を進めました。

また、各地の先行事例を調査するために、長浜市・川越市・横浜元町・下北沢・本多劇場などを視察し、まちづくりの最前線で活動している方たちから貴重なアドバイスも頂戴しました。

② この計画書に示されていることは、1年や2年でまとめた付け焼き刃なものとは違います。また、専門家に任せて形よく整えたものでもありません。「自分たちの手で、自分たちのまちをつくろう。潤いと安らぎのある、活気に満ちたまちをつくろう。」という、まちづくり協議会の設立の主旨に則って活動を積み重ねてきた、その力の結晶なのです。

この計画書にそって平成7年度は、お休み処とまち歩きマップが具体的な形を現します。私たちの活動もいよいよ第2世紀へとステップアップしていこうとしています。これまで以上に、皆様のご理解と力強いご支援を頂きたいと思っております。

③ まちづくりには、年配の方々の知恵・若い人たちの力・そして女性の感性が欠かせません。一人でも多くの方のまちづくり活動への参加を要請する次第です。

わたしたちは、未来に東海道の風景を伝えるために、街道松を少しずつ植えていこうと考えています。大きな松を植えるためには、ある程度の場所が必要になってきます。下図は、可能性のある場所に対して松を植えるための考え方を示したものです。このような考えのもとに、「松の広場」が地元と区と東海道宿場町ネットワークの協力で、先行して実現しました。

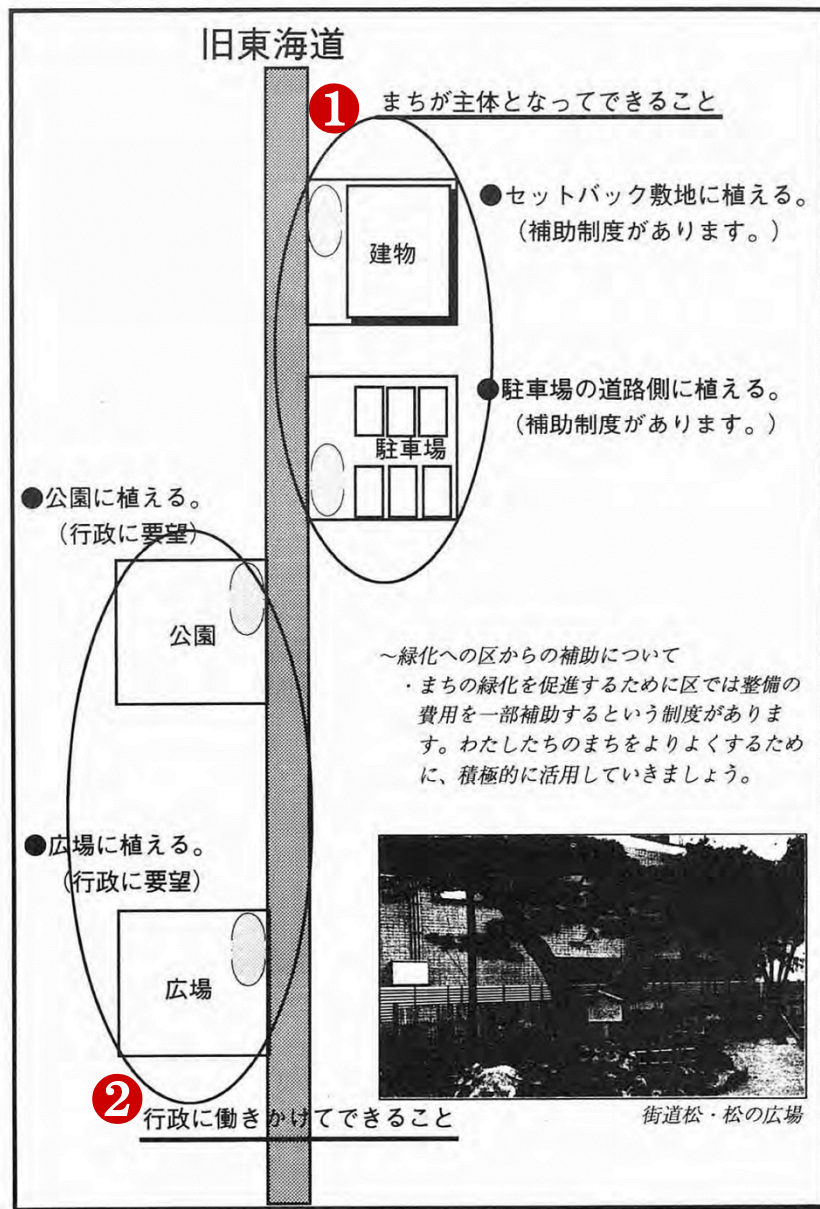
わたしたちは、地元の理解と協力をお願いするとともに、区に対して今後も公園や広場に松を植えていくことを提案します。

役割の 明確化

①地域として
できること
(補助制度等)

②行政に
働きかけて
できること

③住民各自
ができること



「小さな松をつなぐ」とは、地元の一人一人が松を持ち、松とかかわりのある生活を営み、現代の街道松としてつなげていくということです。「大きな松」は場所に条件がつくために、往時の街道松の風景を再現することは困難です。わたしたちは、その大きな松の間を一人一人の小さな松でつないでいき、新しい街道の風景をつくる一部としたいと考えます。

③ 1軒1軒の松→街道松の連続

● 1軒1軒が松を持つことで、街道松が連続して見えてきます。

絵：東京芸大教授 まえのまさる氏「白山は緑の町」から



東海道53次宿場町ネットワークとの交流

73

街道のネットワーク ⇒ 人・文化の交流、まちなみへの反映

東海道53次宿場町ネットワークとは、歴史ある東海道のまちまちが相互に情報交換を交わしながら交流を深めていくことを目的につくられています。毎年各地で大会が開かれ、それぞれのまちの活性化にむけて活発な意見交換がなされています。平成元年には、品川で第二回東海道宿場町シンポジウムが開催されました。平成7年は、保土ヶ谷で第8回の大会が開かれることになっています。

わたしたちの交流はまちづくりにも現れてきています。すでに、南品川1丁目の広場と2丁目の児童遊園には、わたしたちのまちづくりに深い理解を示された東海道の宿場町、浜松・三島の両市から「街道松」を寄贈して頂きました。まさに、東海道53次の交流の1歩が踏み出されたと考えています。

今後は、商業等の交流がはかれるよう、より積極的にまちまちに呼びかけていきたいと考えています。

役割、時期の明確化

①ハード

事業名称	事業の考え方	事業主体	スケジュール			
			平成7年度	平成8~11	平成12~	
① 1. お休み処の整備	地域の人・訪れる人に対して、「交流」「もてなし」「参加」の3つの役割を果たすためのまちづくりの核施設として整備する。	協議会				
		1) お休み処その壱	空店舗の活用による多目的拠点	都補助1/2	●	●
		2) お休み処その弐	店舗の前庭の活用による休憩拠点	区補助1/4	●	●
		3) お休み処その参	店先・広場等の活用による休憩地	協議会1/4	●	●
4) お休み処その四	まちのシンボルとなる複合核施設	まちづくり会社			○	
5) まち歩きマップ(簡易版)	まちの宝物を伝え、楽しみながら歩いてもらうための無料マップの発行	協議会	●			
※ 6) まち歩きマップ(ブック版)	簡易版をさらに詳細にし、有料にて販売するマップの発行		●			
7) まちかどサイン	まちの宝物を伝え、楽しみながら歩いてもらうためのサイン整備 施設の案内誘導と歴史解説を行う。	協議会	●	●	○	

②ソフト

※資金確保(有料販売)
まち歩きマップ
品川グッズ

※運営組織

② 4. 人と文化の育成	人を育て、受け入れていくためのまちの土壌をつくる事業。イベントや効果的な装置・道具を整備する。				
1) セピア色の写真展	まちの歴史を収集記録するとともに、大切に守るためのしくみづくりを行う。	協議会	●	●	
2) 芝居小屋の復活	これからのまちの文化を育てるためのイベントや支援するしくみづくりを行う。	協議会	○	●	○
3) 伝統工芸の活用	品川の伝統工芸を守り活かすための方法をつくる。	協議会	●	●	○
4) 品川グッズの開発	品川の特産を守り育てて、まちづくりの活力となるよう販売を行っていく。	協議会	○	●	○
5) ジュネーブ市との交流	ジュネーブ市との友好を暖めていく。	協議会	●	●	○
6) 東海道五十三次宿場町ネットワークとの交流	東海道のリーダーとしてネットワークを観光・商業と多方面に強めていく。	協議会	●	●	○
※ 5. まちづくり会社の設立	まちづくりの事業を採算ベースにのせて継続していくためにまちづくり会社の設立を図る。	協議会・区			○

Home

品川宿について

これが、みこしだこ！

まち歩きマップ

まちの仲間

まちづくり協議会の活動



まちづくり協議会について



はじめに

品川宿は、今も**祭り**が中心で動いている、ちょっと**おかしな**まちです。

周辺がどかどかと再開発される中、**今も昔**のまんまのちょっと**古びた**まちです。
でも住んでいる**人間**は間違いありません。ちょっと笑えるくらい**人情**に厚い人々です。

そんな品川宿で、私たちはまちづくり活動に取り組んでいます。

つらい時は**ヤセ我慢**と**わう元気**で乗り越え、どうにもならない時は**人様**にお願いし、

うろうろ**10年**、うかうか**20年**、ようやくと**30年**活動してきました。

そこでというのは何ですが、もしもこんなまちに興味を持ってくださる方があったら、

私たちのまちづくり活動に**ご参加**、**ご支援**ください。30年間の活動で、
まちでは今いろいろなものが形になっています。でもここで、もう**もうひと踏ん張り**したのです。

みなさんも、一緒にまちづくりを楽しみましょう！

「どなたもウエルカム、どんな提案もオーケー、全てオープン！」、

それが私たちの**モットー**です。



Home

品川宿について

これが、みこしだこ！

まち歩きマップ

まちの仲間

まちづくり協議会の活動

品川宿のみんなが宝と思っているもの、
一番の自慢は何か？



それは、祭り。
そして祭りといえは、何といっても



神輿





旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会



Home

品川宿について

これが、みこしだこ！

まち歩きマップ

まちの仲間

まちづくり協議会の活動



いつまでも祭りがつづけられるまちを
伝えたい。

それが、東海道品川宿のまちづくり。

どなたも
ご自由に！

月例運営委員会

品川宿のまちづくり協議会では、月1回、運営委員会を開催しています。

この会は、まちづくりや品川宿に興味のある方なら、

どなたでもご参加いただけます。

どなたでもウエルカム、どんな提案もオーケー、すべてオープン、

それが私たちのモットーです。

日時：毎月最後の火曜日 21：00～
(年末など変更のある場合もあります。ご確認ください。)

場所：品川宿交流館1階

参加希望・お問い合わせ



まち歩きマップ 英語版 有料版(オフィシャルガイドブック) 無料版

行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿(旧中山道)






行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿(旧中山道)



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿(旧中山道)

- ・1951年 「夜明け前(映画)」ロケ 住民総出で対応
 - ・1962年 合併への対立 ⇔ **馬籠観光協会発足**(観光客5万人)
 - ・1965～ 街並みへの注目 「せめて外観を整えよう」と団結
- 
- ・1968～71年 妻籠の整備→観光客・外部資本急増→危機感
 - ・1972年 **住民憲章・保存委員会**(売らない・貸さない、色彩ルール,届出等)
- 
- ・1973年 **山口村観光協会発足**(前身の任意団体から村の組織へ)
「観光事業の現状と今後への思考」→観光拠点づくり
 - ・1974年 外部建築家招聘・診断→ファサード指導、駐車場確保
 - ・1978年 電柱移設
- 
- ・1983年 **町並整備委員会・町並み診断**
 - ・1985年 中山道フィールド博物館構想(街道そのものが博物館)

行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）

- ・1986年 「ふるさとの家」 地区住民総出で建設

- ・1988～91年

中山道フィールド博物館構想 に基づく整備

中山道フィールド博物館整備事業計画推進委員会

水車小屋新設 を機に、石畳等を含む旧街道整備

バイパス完成により生活道路としての静けさを取戻す



- ・2007年 中津川市景観計画 馬籠中山道地区（重点地区）

→町並み整備委員会など、地元住民による運営

建物・屋根の高さ・形状 → 坂のある街並み景観

※坂の上から見た屋根並み景観に配慮

※屋並が道路勾配と並行になる高さ設定

木、石、瓦、土等の自然素材／基調色 黒、白、茶 等



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）

- ・2020年「特定非営利活動法人 馬籠村」 発足



- ・2021年 耕作放棄地の試験栽培
馬籠地区農地活性化協議会

- ・2022年 地区全体ビジョン
耕作放棄地の管理、梵天山の土での陶器作り試作
散策地図 全戸配布 ガイドマップ作成



滞在時間延長 高付加価値化
「稼げる看板商品創出事業」への応募資料作成



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿(旧中山道)



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）

かつて歴史人たちが旅した時代からあった伝統的な祭祀は、現代でも当地域の情景です。

どんな時代でも地域の人の輪を結んだ祭祀は、山間の厳しい地域を維持する力でした。

さらに、現代では観光振興の他、地域の人をつなぐ為の取り組みも活発に行われています。



峠集落 熊野神社例祭

馬籠峠のすぐ下にある峠集落・熊野神社の秋祭り。

元々はお神輿が無い、集落を練り歩くだけのものでした。

2012年から村人が手作りのお神輿を準備して、家々を訪問するようになりました。



かつて、このお祭りでは雌獅子の面が使われていました。

これは江戸時代より村人が大切に受け継いできたものですが、数年前に破損。今は、獅子舞がその代わりに務めます。

行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿(旧中山道)

馬籠・荒町集落 諏訪神社大祭

諏訪神社で行われる秋祭りでは、大人の神輿とこども神輿がそれぞれ1基ずつ繰り出します。

どちらの神輿も神社を出発して荒町、新田、青野原、馬籠の4集落を練り歩きます。

急坂の馬籠宿を降りる神輿。

もともと、れっきとした地域のお祭りですが、いつの頃からか通りゆく観光客の方も巻き込んで、楽しんで頂くようになってきました。



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）

神社で奉納される地域・馬籠黎明太鼓は、保存会を中心として受け継がれる様になって25年以上経ちました。



馬籠周辺の集落のお祭りでは巫女衣装に身を包んだ小学生の女の子による巫女舞いの奉納を持つものがありました。
少子高齢化が進む中、この行事が途絶えてしまった地域もありますが、諏訪神社大祭では続いています。



行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）



ながしそうめん

馬籠宿ではその急坂を活かして、流しそうめんを行う催しが年2回行われています。

2回行う理由。

1回は、観光地・馬籠宿の振興の一環ですが、もう1回は周辺集落も含めて地域の人たちが大勢集まって一緒に楽しむためのもの。ふるさとの情緒と人情を味わえる、夏の日の夕暮れ時です。

行動計画のシナリオの動かし方

事例：馬籠宿（旧中山道）

馬籠あかり街道

山里の紅葉が赤く染まった頃、宿場内および宿場から島田公園にかけての道に行灯をともし、**秋の夜を味わう祭事を行っています。**

イベントに関する企画、備品調達、機材設置・撤収、警備、出納、電源管理等の各種役割は各区住民の協力によって分担され、毎年、運営されています。

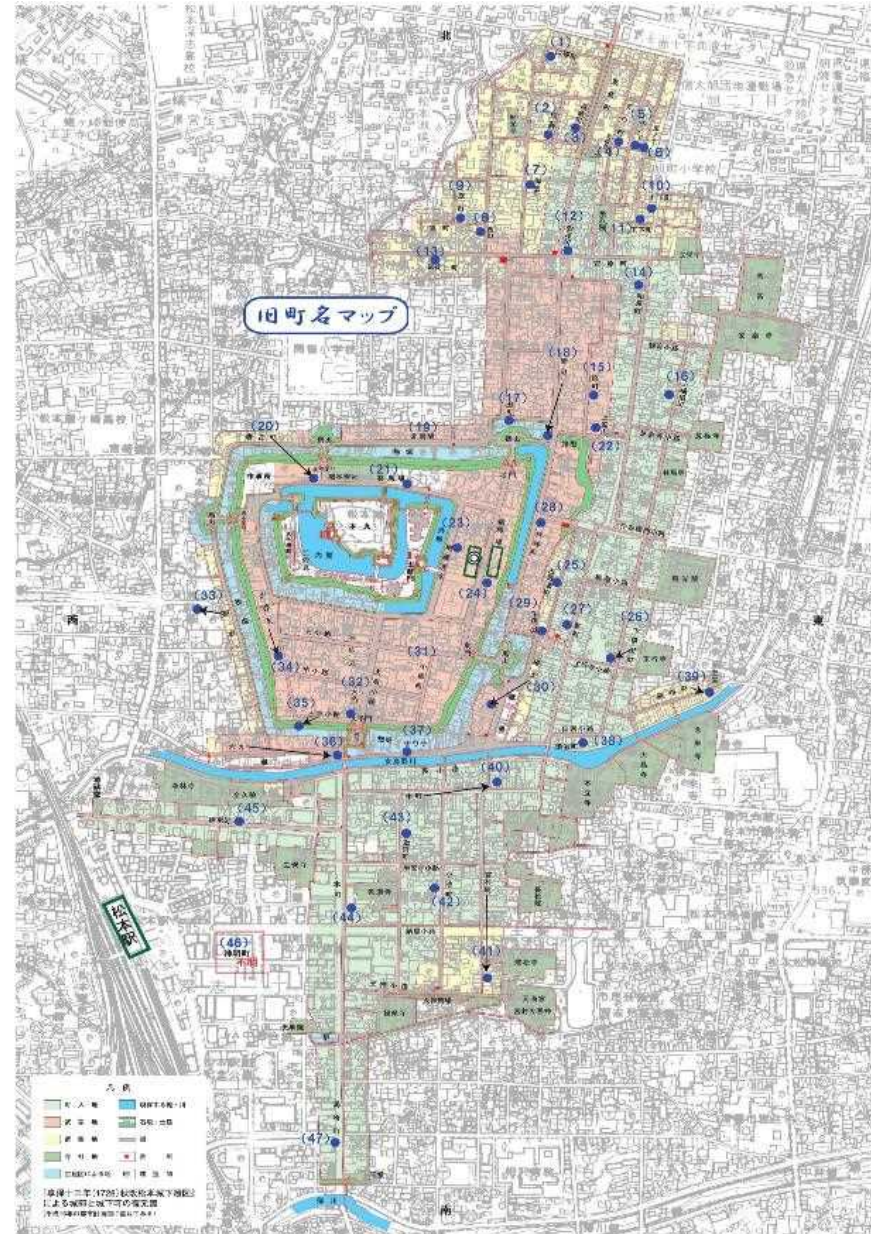
近年では竹灯籠の設置にも取組中。
馬籠周辺には間伐しなければならない竹林も多い事から、今後、土地の竹を活用した竹灯籠づくりにも挑戦したいと考えています。



行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

松本市 旧町名マップ



凡例

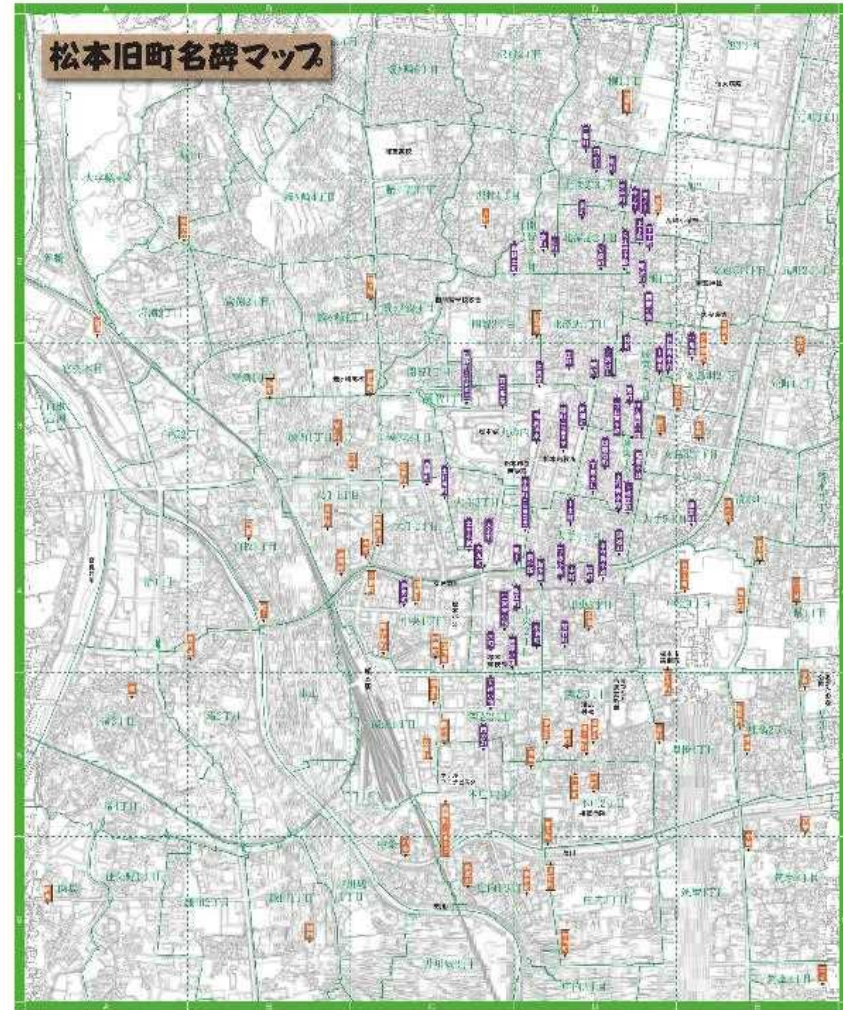
- | | |
|---|---|
|  町人地 |  現存する堀・川 |
|  武家地 |  石垣・土塁 |
|  武家地 |  道 |
|  寺社地 |  番所 |
|  古絵図による堀 |  建造物 |

『享保十三年(1728)秋改松本城下絵図』
 による城郭と城下町の復元図
 (平成16年の都市計画図に重ねてある)

行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

松本市 旧町名碑マップ



松本旧町名碑マップ

凡例

色	内容
赤	旧町名碑
青	旧町名碑
黄	旧町名碑
緑	旧町名碑
紫	旧町名碑
茶	旧町名碑
黒	旧町名碑
白	旧町名碑

1. 旧町名碑の設置場所

2. 旧町名碑の設置時期

3. 旧町名碑の設置理由

4. 旧町名碑の設置状況

5. 旧町名碑の設置計画

6. 旧町名碑の設置効果

7. 旧町名碑の設置課題

8. 旧町名碑の設置展望

9. 旧町名碑の設置実績

10. 旧町名碑の設置実績

11. 旧町名碑の設置実績

12. 旧町名碑の設置実績

13. 旧町名碑の設置実績

14. 旧町名碑の設置実績

15. 旧町名碑の設置実績

16. 旧町名碑の設置実績

17. 旧町名碑の設置実績

18. 旧町名碑の設置実績

19. 旧町名碑の設置実績

20. 旧町名碑の設置実績

21. 旧町名碑の設置実績

22. 旧町名碑の設置実績

23. 旧町名碑の設置実績

24. 旧町名碑の設置実績

25. 旧町名碑の設置実績

26. 旧町名碑の設置実績

27. 旧町名碑の設置実績

28. 旧町名碑の設置実績

29. 旧町名碑の設置実績

30. 旧町名碑の設置実績

31. 旧町名碑の設置実績

32. 旧町名碑の設置実績

33. 旧町名碑の設置実績

34. 旧町名碑の設置実績

35. 旧町名碑の設置実績

36. 旧町名碑の設置実績

37. 旧町名碑の設置実績

38. 旧町名碑の設置実績

39. 旧町名碑の設置実績

40. 旧町名碑の設置実績

41. 旧町名碑の設置実績

42. 旧町名碑の設置実績

43. 旧町名碑の設置実績

44. 旧町名碑の設置実績

45. 旧町名碑の設置実績

46. 旧町名碑の設置実績

47. 旧町名碑の設置実績

48. 旧町名碑の設置実績

49. 旧町名碑の設置実績

50. 旧町名碑の設置実績

51. 旧町名碑の設置実績

52. 旧町名碑の設置実績

53. 旧町名碑の設置実績

54. 旧町名碑の設置実績

55. 旧町名碑の設置実績

56. 旧町名碑の設置実績

57. 旧町名碑の設置実績

58. 旧町名碑の設置実績

59. 旧町名碑の設置実績

60. 旧町名碑の設置実績

61. 旧町名碑の設置実績

62. 旧町名碑の設置実績

63. 旧町名碑の設置実績

64. 旧町名碑の設置実績

65. 旧町名碑の設置実績

66. 旧町名碑の設置実績

67. 旧町名碑の設置実績

68. 旧町名碑の設置実績

69. 旧町名碑の設置実績

70. 旧町名碑の設置実績

71. 旧町名碑の設置実績

72. 旧町名碑の設置実績

73. 旧町名碑の設置実績

74. 旧町名碑の設置実績

75. 旧町名碑の設置実績

76. 旧町名碑の設置実績

77. 旧町名碑の設置実績

78. 旧町名碑の設置実績

79. 旧町名碑の設置実績

80. 旧町名碑の設置実績

81. 旧町名碑の設置実績

82. 旧町名碑の設置実績

83. 旧町名碑の設置実績

84. 旧町名碑の設置実績

85. 旧町名碑の設置実績

86. 旧町名碑の設置実績

87. 旧町名碑の設置実績

88. 旧町名碑の設置実績

89. 旧町名碑の設置実績

90. 旧町名碑の設置実績

91. 旧町名碑の設置実績

92. 旧町名碑の設置実績

93. 旧町名碑の設置実績

94. 旧町名碑の設置実績

95. 旧町名碑の設置実績

96. 旧町名碑の設置実績

97. 旧町名碑の設置実績

98. 旧町名碑の設置実績

99. 旧町名碑の設置実績

100. 旧町名碑の設置実績

松本旧町名碑マップは…

このマップは、松本市の全庁利用型汎用GISに現在の大字を示したものを基に、松本市文化財課作成の旧町名碑マップ～江戸時代末期の町名～、同～昭和初年の町名～から江戸時代末期の61町名と、昭和初年の松本市街地とその周辺の63町名の碑がたつ場所をできるだけ正確に示したものです。

松本市では、昭和37年(1962)の「住居表示に関する法律」により同39年から住居表示整備事業を実施しています。それから50年以上を経た現在、市街地を中心に住居表示から消えてしまった町名があります。松本市教育委員会では、江戸時代から昭和初期までにあったこれらの町名の記憶を残すため、昭和62年から平成18年(2006)にかけて「旧町名標識」を該当する132か所(他に町会等が設置3か所)に設置しました。これらの標識には、江戸時代末期の旧町名については細長い石柱を、昭和時代初期の旧町名については板状の石材を使用し、その町名の由来もわかりやすく記してあります。

温故知新一町名や地名は先人たちからの、今に生きる私たちへの贈りものです。この「松本新・旧町名マップ」を携えてこれらをたどり、かけがえのない贈りものにふれてみてください。

この地図は、松本市長の承認を得て、松本市作成の松本市基本図1/2,500及び1/10,000を複製したものである。(承認番号 平成28年松建政指令第335-2号)

凡例

葵の馬場

||江戸時代の町名

逢初町

||昭和初期の町名

た

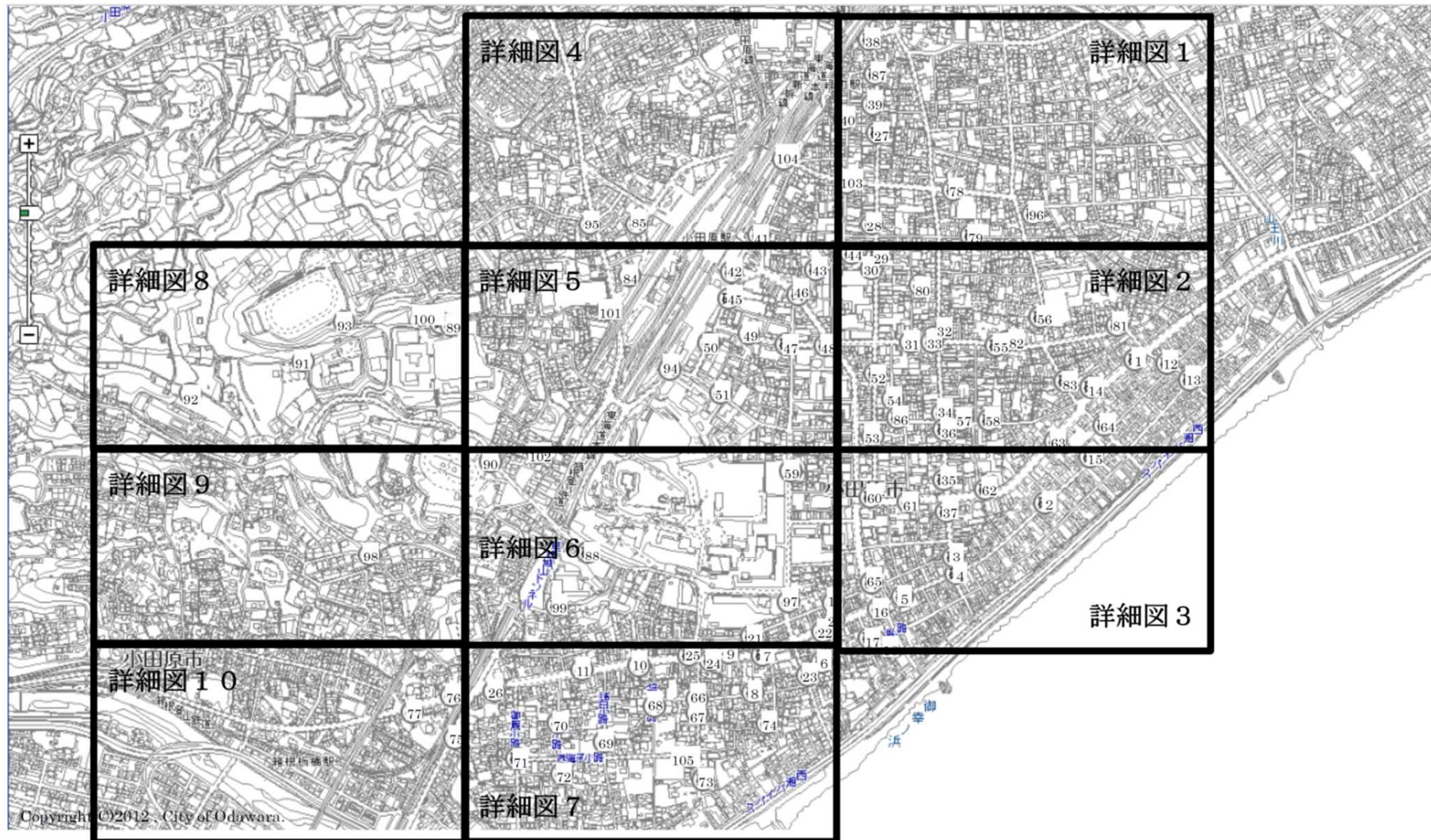
● 新町(江戸) …… D・3	● 神明町(昭和) …… C・4	● 新家町(昭和) …… C・6	● 末広町(昭和) …… D・6	● 大名町(江戸) …… C・4	● 鷹匠町(江戸) …… C・3	● 竹平町(昭和) …… D・5	● 田町(江戸) …… D・3
● 四ツ谷(昭和) …… E・4	● 両島(昭和) …… A・6	● 六九町(江戸) …… C・4	● 若松町(昭和) …… E・5	● 江戸時代の町名	● 江戸時代の町名	● 江戸時代の町名	● 江戸時代の町名
				昭和初期の町名	昭和初期の町名	昭和初期の町名	昭和初期の町名

行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

小田原市 歴史的町名碑の設置

歴史的町名碑 全体図



歴史的町名碑 詳細図 (1)



行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

港区 旧町名由来板

1. 烏森通り

旧町名由来板
めぐり 20-1



桜田本郷町
 明治二年(1869)、半蔵門外の本郷六丁目(地名)を桜田本郷町と改称しました。明治六年(1872)、烏森通りを合併しました。

兼房町
 町の沿革に関しては、一説に、徳川家康入国の際、兼房平四郎門外(半蔵外)に居館を建て兼房町と称し、当地の名主となったとあります。寛政六年(1794)、新町からの大火で焼失して火災跡に引上げられ、相川寺(現、林百貨の兼房跡)に代地を与えられました。明治六年(1872)、さらに車塚(伏見前)の地を合併しました。

桜田伏見町
 わかしは兼房町と併んで管が隣の地にありましたが、徳川家康入国後、江戸参勤のため用地となり、半蔵門外の西方の地に移されました。寛政六年(1794)、新町からの大火で焼失して火災跡に引上げられ、同年、兼房町に移転しました。町名はこの町の名主(伏見兼右衛門)に由来しますが、伏見兼右衛門は伏見町の管分人ではなく、すゝと佐竹の名主です。

桜田善右衛門町
 町名は、寛政年間(1688～1704)まで代々兼右衛門といふものが名工役を勤めていたこと由来します。わかしは兼房町と併んで管が隣の地にありましたが、徳川家康入国の際、江戸参勤のため用地となり、半蔵門外の西方の地に移されました。寛政六年(1794)、新町からの大火で焼失して火災跡に引上げられ、同年、兼房町の火災跡跡の地を合併しました。

桜田和泉町
 わかしは兼房町と併んで管が隣の地にありましたが、徳川家康入国の際、江戸参勤のため用地となり、半蔵門外の西方の地に移されました。寛政六年(1794)、新町からの大火で焼失して火災跡に引上げられ、同年、兼房町の火災跡跡の地を合併しました。町名の由来はわかしは兼房町と併んで管が隣の地にありましたが、徳川家康入国の際、江戸参勤のため用地となり、半蔵門外の西方の地に移されました。寛政六年(1794)、新町からの大火で焼失して火災跡に引上げられ、同年、兼房町の火災跡跡の地を合併しました。




The origins of old town names in Shiba area.
 This is a board posted in the vicinity of the main street, outside of which all these names correspond to the history of the beginning of the district.

Sakuradahongo-cho
 The town was founded in the 7th year of the Meiji period (1869). The mainline land outside the main highway gate, in Hongo, Sakurada was named sakuradahongo-cho.

Kanbō-cho
 After the Meiji Restoration, Kanbō-cho was a residential area for the samurai who were outside the Shiba district, serving as a headman, and therefore the town is said to have been named after him.

Sakuradafushimi-cho
 This town, called Sakurada-ura village in old times, was located near Kasumigaseki. Later the land was used for the construction of the roads in Edo, the town moved to nearby present-day land. In the 6th year of the Meiji period (1872), the town was merged by a spreading fire, the former moved to the present site. It was named after Fushimi (Sakurada) who was the founder of the town.

Sakuradazeni-cho
 The town was named after a business, having the same proper name "Zeni-cho" during the Genroku period (1660-1710). It was called sakuradazeni-cho (village) in old times, having related name. Sakuradazeni, however, has been divided by a different site for construction of the city of Edo. This village, named in a way by substitute local names, it was absorbed by a spreading fire, and again moved to the present site.

Sakuradazumi-cho
 This town, called Sakurada-ura village in old times, was located near Kasumigaseki. Later, it was covered by a fire in the construction of the roads in Edo. The town moved to near by substitute land. In the 6th year of the Meiji period (1872), the town was absorbed by a spreading fire, and therefore moved to the present site. It is not clearly known how the town got its name, but it is possible to have been named after a business in the same manner as Sakuradahongo-cho.






港区総合支庁 03-3579-3111(内線)

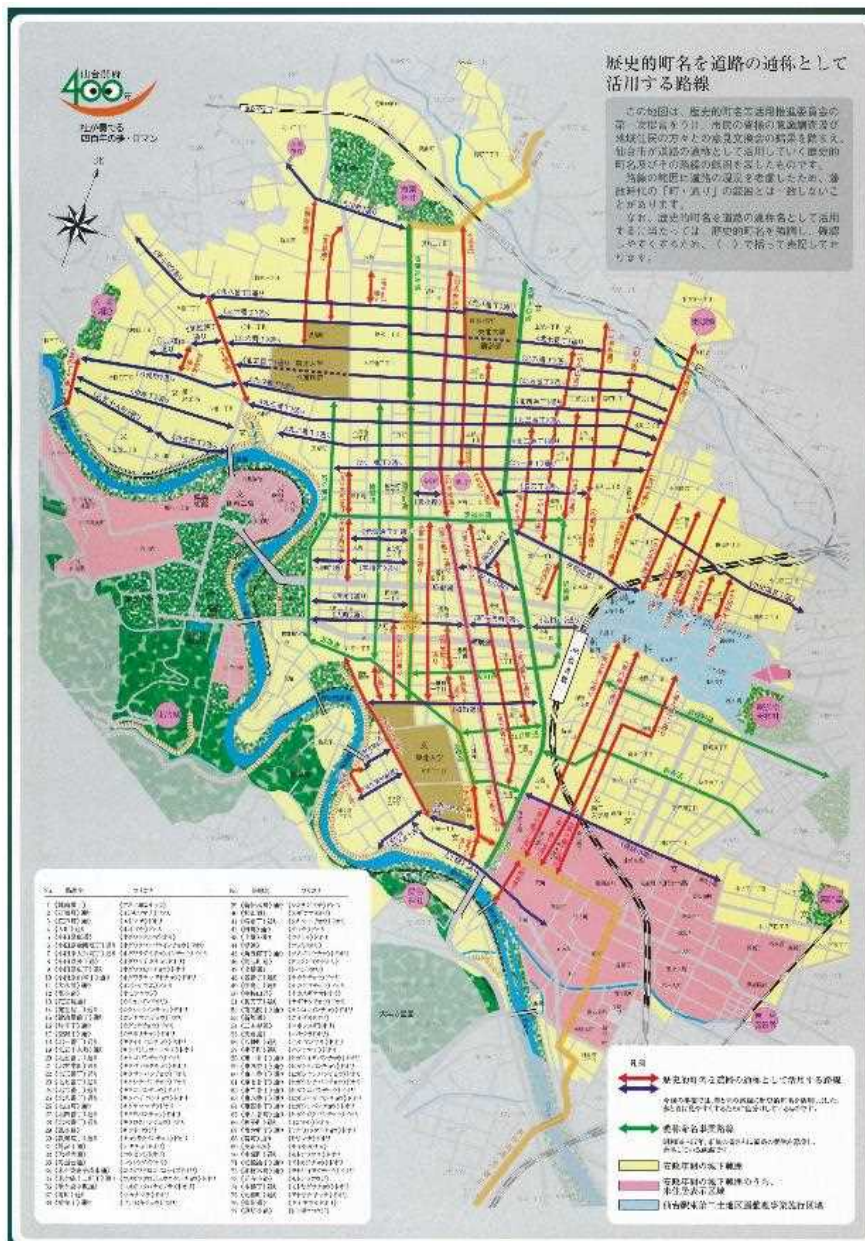
ここは、港区新橋2-13です。

行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

仙台市 歴史的町名を道路の通称として活用する 路線マップ

- 凡例**
- 
歴史的町名を道路の通称として活用する路線
 今回の事業では、赤と青の路線に歴史的町名を活用しました。赤と青は見やすくするために色分けしているものです。
 - 
愛称命名事業路線
 昭和56～57年、市民の皆さんに道路の愛称を募集し、命名している路線です。
 - 
安政年間の城下範囲
 - 
安政年間の城下範囲のうち、未住居表示区域
 - 
仙台駅東第二土地区画整理事業施行区域



歴史的町名を道路の通称として活用する路線

この地図は、歴史的町名等活用推進委員会の第一次提言をうけ、市民の皆様の意識調査及び地域住民の方々との意見交換会の結果を踏まえ、仙台市が道路の通称として活用していく歴史的町名及びその路線の範囲を表したものです。

路線の範囲は道路の現況を考慮したため、藩政時代の「町・通り」の範囲とは一致しないことがあります。

なお、歴史的町名を道路の通称名として活用するに当たっては、歴史的町名を強調し、確認しやすくするため、《 》で括って表記しております。

行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

村上市 まち歩き城下絵図(明治初年城下絵図)

まち歩き城下絵図 (明治初年村上市城下絵図)

施設や店舗、交差点名を手掛かりに古地図を使って町並み散策

村上市城下町区域内には、城下町以後に新設整備された道路もありますが、城下町当時の地割(道路の形態)が色濃く残っていることから、寛政年間(1789~1800)に測量したものをもとに作成された明治初年村上市城下絵図に公共施設や当地域固有の歴史を感じる店舗、交差点を加筆した古地図を作成しました。

- | 凡例 | <明治初年絵図> | <店舗等> |
|---------|----------|-------------|
| | ■土蔵敷 | ■社寺 |
| | ■木造家屋 | ■川用・堀 |
| | ■町界線 | ■銭屋・酒場 |
| | ■竹林・野草地 | ■米穀売場 |
| | ■道路 | ■茶店・茶工場 |
| <現在の地図> | | <歴史的建築物> |
| ■主要道路 | | ■重要文化財 |
| | | ■歴史的風致形成建築物 |



九品仏

村上市下の九品仏(石仏)は、1ヶ所にまとまって設置されていないことが特徴で、城下の入り口など9箇所(9)に設置されています。この石仏は、享和5年(1788)に光厳寺の僧侶である上人が、村上市城主内藤氏の家祖、内藤信成の150回忌供養のために村上市下及び荒波町に整備立したもので、九品は、極楽浄土にある九つの菩薩の尊像であり、極楽往生するといずれかの浄土に行くことができるといわれており、九品仏はその浄土に在る阿彌陀の来迎の姿とされ、上品上生から下品下生までの九つの階(千手(千手)の)の結び方が異なります。

※村上市城下町区域内には、9体の九品仏が設置されており、残りの11体は、市街地外の阿彌陀寺等に設置されています。

村上市城

村上市は、村上市下町(現市街地部)の東側に位置する標高135mの臥牛山に築かれた平山城で中世から近世を通じて揚北地方(現新潟県下越地方)の中心的な役割を果たしていた城跡です。築城時期は不明ですが16世紀初頭に国人領主である本氏氏が築城村(現村上市鎮西)から現在地に本拠地を移したと考えられています。中世期に臥牛山東面に築かれた徳田輪倉や堀、土庫、井戸跡などの遺構とともに、江戸時代前期に村上市城半として入封した村上市氏宗親に上り大規模な城普請により山手一帯を整備された本丸の天守台跡や二ノ丸の防塹、塹南、西門、出櫓、平等寺の石頭跡、三ノ丸には月見櫓、鞍馬、千賀丸等の石頭跡が残り、石垣は最大で高さ8m近くに及びるものがあります。このほか、山下には城主居館跡や土庫跡、薬師社跡内の土庫跡の一部なども残っており、中世と近世の城跡が混在した城跡です。なお、村上市城跡は中世から近世の城跡跡として平成5年(1993)6月に国の史跡に指定されています。

※村上市城であった城門や堀跡(堀)・本丸跡など、城跡跡から復元された村上市城跡は、現在でも村上市城跡公園として公開されています。

★六斎市

六斎市の趣意は、村上市町長(現中条町)の命を受け一人の職員が中条町(現胎内市)の衣料店に用事を頼み、天正8年(1580)4月に1軒の古着屋が三之町通りに開店したことが起源とされています。翌年には、100軒ほどの店舗が立ち並び、市も賑わい始め、その後は、月6回開かれる六斎市として定着しました。現在は、毎月2と7のつく日に村上市役所前の市道に地場の新鮮な野菜や卵、特産物、日用品などの店舗が約60店舗立ち並びます。

行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

萩市 古地図を片手に萩を歩こう



日本を近代化へと導いた萩藩。
その藩主毛利氏が居住した萩城本丸・二の丸。
そして藩の重臣武家たちが居を構えた三の丸。
そこは今も、彼らが居住した当時の
豪壮な面影を偲ばせている。

古地図を片手に萩を歩こう

豪壮な武家屋敷の面影く堀内伝建地区く

萩城下絵図（幕末期の絵図を基に NPO 萩まちじゅう博物館が作成）

行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

萩市 古地図を片手に萩を歩こう

堀内に居を構えた萩藩の重臣たち

かつて堀内地区は、萩城三の丸として萩藩の重臣たちが居住した屋敷地が広がっていました。1千石以上の武士が7割を占め、1万石前後の武士が御成道治いに屋敷を構えていました。

三の丸へは、3つの総門（北の総門・中の総門・平安吉の総門）からでしか入城することができず、厳しい監視が行われていました。堀内には彼らの捨領地があり、それぞれの場所に本屋も構えていました。



支藩及び平判別地図（萩藩博物館提供）

明治維新と武家屋敷の解体

幕末の激動期、13代藩主毛利敬親の山口移鎮により重臣たちは山口へ移りました。さらにその後の明治維新による幕藩体制の崩壊によって広大な武家屋敷を維持することが困難となりました。家主を失った武家屋敷は徐々に解体、または荒廃し、消失していきます。

しかし旧萩藩士が豊高政の奨励により、荒廃した屋敷内での夏みかんの栽培が行われるようになりました。この夏みかん栽培は昭和30年頃までの間大変況を呈したために、広大な都市空間を近代化に伴う開発の波から防ぐことができたのです。

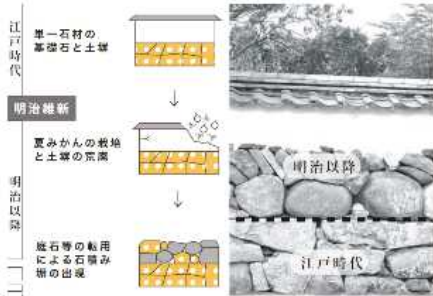


石積み塀 —堀内散策、注目ポイント—

藩政期、各屋敷の周囲は花崗岩が安山岩（空山石）かの一石材で組まれた基礎石垣の上に、土塀や長屋が築かれていました。明治以降も、夏みかんを風害から守るためにこの土塀は残されました。

次第に朽ちていった土塀は、屋敷内の不用品石や空山からの採石などで修理され、2種類の石が混合した石積み塀が見られるようになりました。

また、夏みかん畑に転用するにあたって、既存の屋敷の門口では壁が広すぎたために、この石積み塀で埋められました。



萩城下地図（長天照の絵図を基にNP0萩まちじゅう博物館が作成）

古地図を片手に萩を歩こう
豪壮な武家屋敷の面影／堀内伝建地区

萩まちじゅう博物館 堀内サテライト

萩まちじゅう博物館は、萩博物館を拠点に、まちじゅうに広がる豊かな歴史や文化、自然の遺産を展示物ととらえる、屋根のない広い博物館です。そして、それらの遺産を保存・活用し、次世代に伝えていこうとするまちづくりの取り組みでもあります。

萩まちじゅう博物館には、エリアやテーマでまとまりをもった、いくつかのサテライト（地域博物館）があります。このマップでは、その1つ、「堀内サテライト：萩城一本丸・二の丸・三の丸」をご紹介します。また、出発点となる萩博物館では、エントランスホールの「まちなみウォークスルー」や常設展示で、堀内地区の歴史や江戸時代の様子を学ぶことができます。



堀内サテライトについて

萩城三の丸は堀内地区は、藩主毛利一門、そして永代家老・寄組等の上級武士が居住した広大な武家屋敷跡です。

幕末、明治維新の激動の時代を経て屋敷そのものは消滅してしまいましたが、その都市区画はほとんど変わっていません。この広大な武家屋敷跡の遺構の上に近代の人々の住みこなしによって醸成された、多様な時代の要素が見てとれる町並みは日本でも大変珍しく、昭和51年、堀内地区は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。



藩政期の武家地をめぐるトレイル

ガイドと歩く気分を楽しめる！



このマップは、元萩観光ボランティアガイドの会長の中村芳生さんと一緒に歩いてつくったマップです。芳生さんから教えて頂いた堀内地区の見どころスポットを○で示しています！

まち歩きの目安
 1→16 : 所用時間 2時間
 1→10 : 所用時間 1時間

1 萩博物館

三の丸に広がっていた重臣たちの武家屋敷を参考に設計された博物館。堀内地区のまち歩きを始める前に、まず萩博物館で堀内地区の情報を集めましょう。

2 大馬場筋

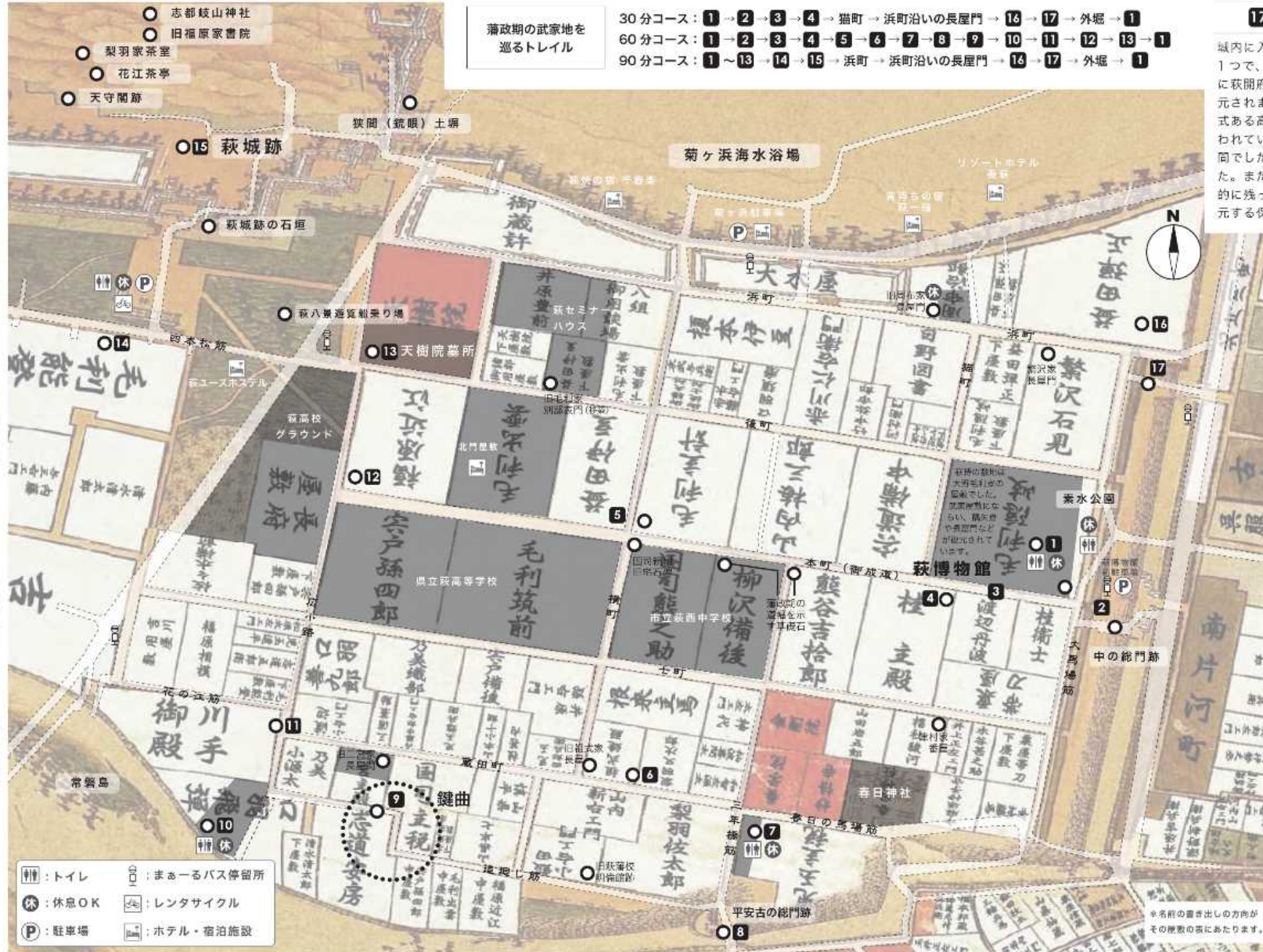
江戸時代、外堀の内側には馬場が広がり、家臣たちの乗馬や武術の訓練などが行われていました。

3 本町（御成道）

本町は、藩主の御成道でした。1万石前後の武家屋敷が道の両側に建ち並び、その基礎石垣には加工の難しい大きな花崗岩が主に使われています。かつては現在の約2倍の道幅でしたが、広すぎる道を鼻柱に変更して今の道幅に狭まりました。当時の道幅を基礎石の遺り等から判断することができます。

4 藩政期の土堀

生け垣の裏をのぞいてみてください。そこにはひっそりと藩政期の古い土堀が残っています。この土堀は、当時の御成道の道幅を今に伝えています。



5 間田益田家旧宅土堀

堀内地区に残る最も長い土堀です。この真っ白な漆喰土堀が、堀内地区全体の光景でした。古くから住み人によると、夏には日壁に日光が反射して、とてもまぶしかったそうです。

6 旧梨羽家書院

大居士683石梨羽家の書院。堀内地区に残る数少ない武家屋敷の本邸の一部で、19世紀に建築された貴重な建築物で、県指定有形文化財です。

7 旧児玉家長屋門

奇士2,243石児玉家の長屋門。外壁がなまこ壁の立派な造りで、旧城下から外堀を渡って、この長屋門に辿り着くと、三の丸らしい重厚な造りに目を奪われます。

8 平安橋

城内と城下を隔てる外堀上にかかる片持ち梁構造の18世紀の石橋です。橋を渡ると城内に入る3つの門のうちの1つ「平安古の総門」があり、ここでは常に厳しい監視が行われていました。

9 堀内の鍵曲

鍵曲とは、迷路のような鋭角に曲がった見通しのきかない街路です。今も江戸時代にタイムスリップしたかのような錯覚をおぼえます。大河ドラマなどのロケ地としても多く使われています。

10 口羽家住宅

奇士1,000石の口羽家は、堀内地区において唯一の武家屋敷の主屋が残っており、子孫が現在も住んでいます。表門は江戸中期の建築で、屋敷全体が国指定重要文化財です。

11 広小路の三本桜

江戸時代、北側に延びる「広小路」はもっと道幅が広く、このあたりが元の道幅でした。明治以降、堀地の拡張で道幅が狭められました。

12 旧福原家萩屋敷門

福原家は永代家老を務め、標高1万1千3百石の重臣でした。門は江戸中期の建築で、武家屋敷には珍しい全体が、県指定有

藩政期の武家地を巡るトレイル

- 30分コース: 1→2→3→4→猫町→浜町沿いの長屋門→16→17→外堀→1
- 60分コース: 1→2→3→4→5→6→7→8→9→10→11→12→13→1
- 90分コース: 1→13→14→15→浜町→浜町沿いの長屋門→16→17→外堀→1

17 北の総門と外堀

城内に入る3つの門のうちの1つで、平成16年(2004)に萩開府400年を記念して復元されました。高さ7mの格調ある高麗門は、国内最大級の城門といわれています。外堀は、初期には幅が20間でしたが、江戸中期に8間になりました。また、外堀内側に築かれた土堀も部分的に残っています。外堀を当時の姿へ復元する保存整備が進められています。

18 旧益田家物見矢倉

益田家は永代家老を務め、標高1万2千石の重臣でした。建物は、北の総門の近くに位置し、人の出入りを見張る物見矢倉であったと言われています。

19 萩城跡

慶長9年(1604)に築城された毛利氏の居城です。五層の天守(高さ約20m)がそびえていましたが、明治7年(1874)に解体されました。萩城丸の遺構として、広大な石垣群と大きな内堀が往時の姿を伝えています。

14 旧厚狭毛利家萩屋敷長屋

厚狭毛利家は一門三郎、標高8,371石の重臣でした。長屋は、現存する武家屋敷では一番大きく、長さが51.5mあります。

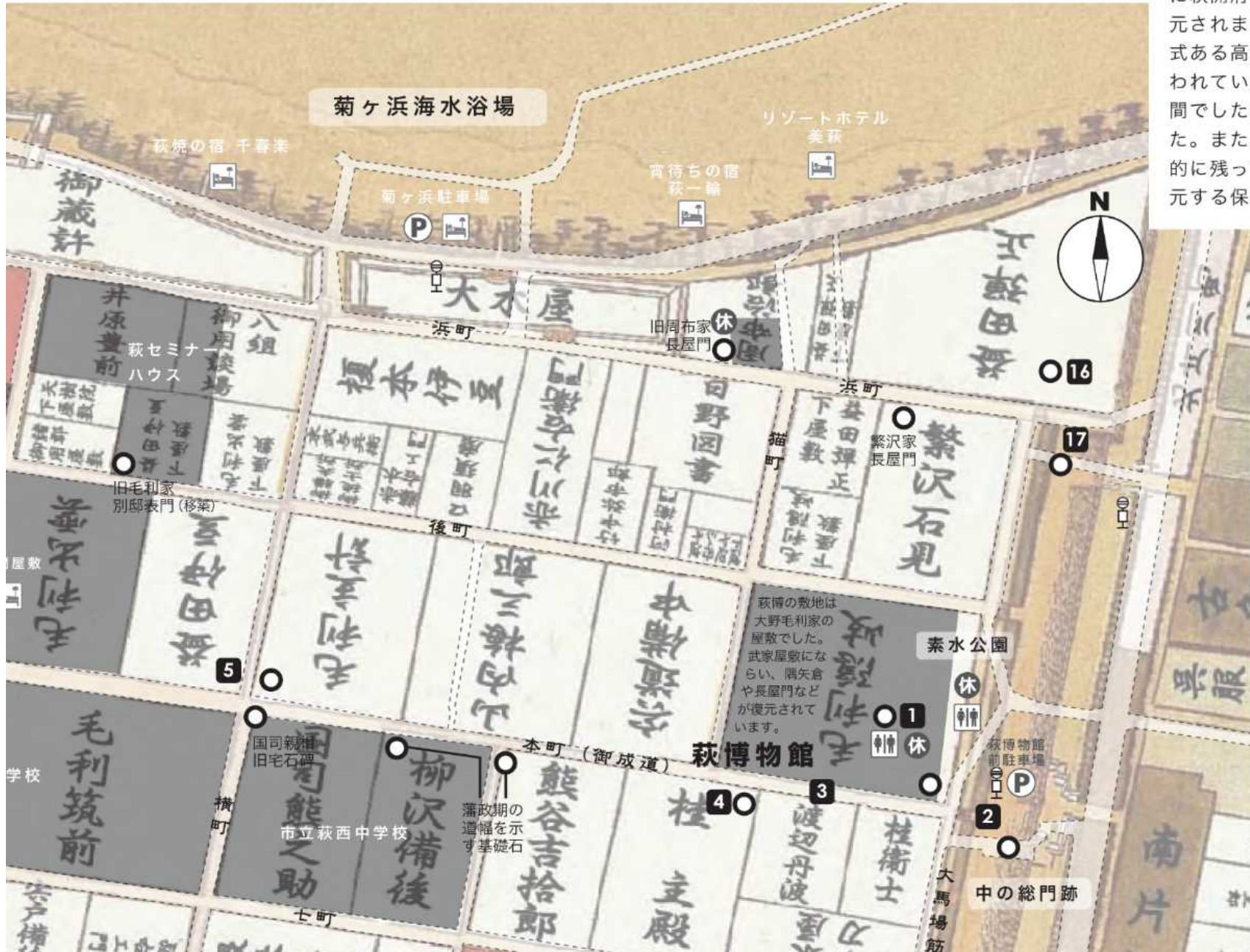
13 天樹院墓所

萩城を築城した毛利輝元の菩提寺「天樹院」の跡です。現在は、墓所のみが残っています。

藩政期の武家地をめぐるトレイル

藩政期の武家地を
巡るトレイル

- 30分コース：1 → 2 → 3 → 4 → 猫町 → 浜町沿いの長屋門 → 16 → 17 → 外堀 → 1
- 60分コース：1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 7 → 8 → 9 → 10 → 11 → 12 → 13 → 1
- 90分コース：1 ~ 13 → 14 → 15 → 浜町 → 浜町沿いの長屋門 → 16 → 17 → 外堀 → 1



17 北の総門と外堀

城内に入る3つの門のうちの1つで、平成16年(2004)に萩開府400年を記念して復元されました。高さ7mの格式ある高麗門は、国内最大級の城門といわれています。外堀は、初期には幅が20間でしたが、江戸中期に8間になりました。また、外堀内側に築かれた土塁も部分的に残っています。外堀を当時の姿へ復元する保存整備が進められています。



16 旧益田家物見矢倉

益田家は永代家老を務め、禄高1万2千石の重臣でした。建物は、北の総門の近くに位置し、人の出入りを見張る物見矢倉であったと言われています。



15 萩城跡

慶長9年(1604)に築城された毛利氏の居城です。五層の天守(高さ約20m)がそびえていましたが、明治7年(1874)に解体されました。萩城本丸の遺構として、広大な石垣群と大きな内堀が往時の姿を伝えています。

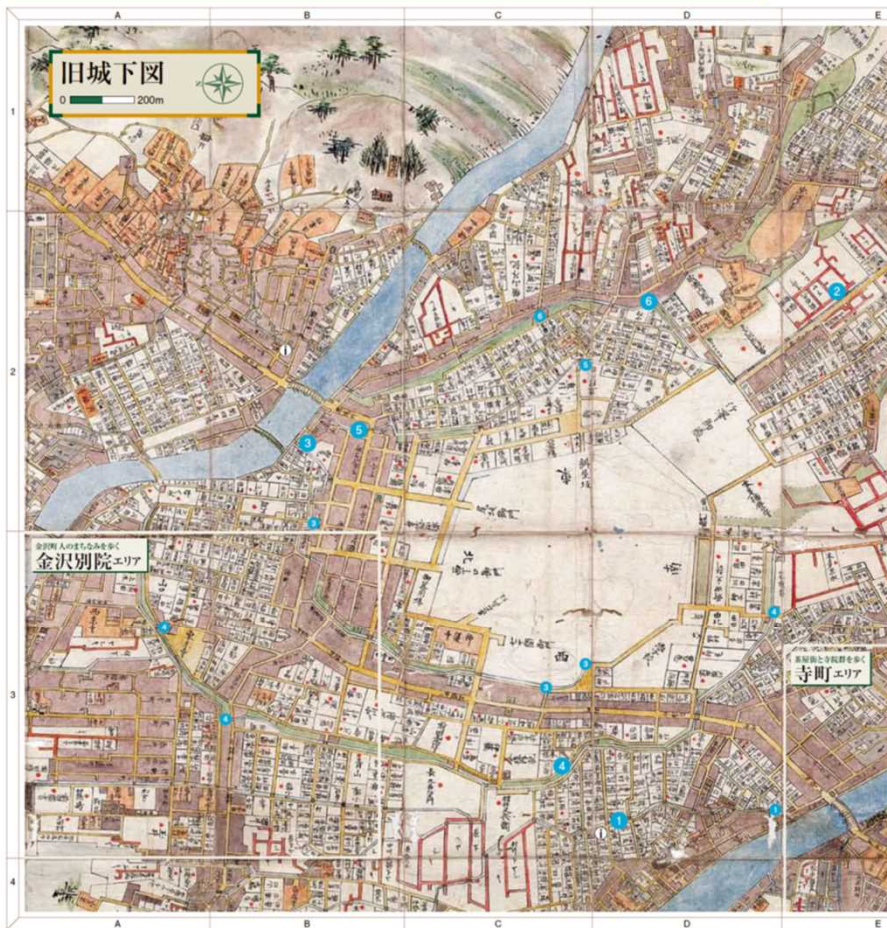


14 旧厚狭毛利家萩屋敷跡

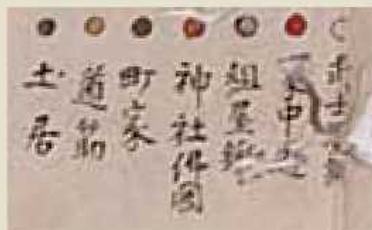
行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

金沢 古地図めぐり



【凡例】 古地図にはじめから描かれていた凡例



地図中の氏名や施設名は、文字の頭が敷地の門にくるように書かれています。



氏名の横に赤丸印がある家は「人持(ひともち)」と呼ばれる身分の武家で、1000石以上の石高を有していました。

- 武士屋敷(ぶしやしき)
- 家中道(かちゆうみち)
- 組屋敷(くみやしき)
- 神社仏閣(じんじやぶつかく)
- 町家(まちや)
- 道筋(みちすじ)
- 土居(どい)

古地図めぐりに便利ように加えた凡例

施設



用水・惣構跡見学ポイント

- ① 大野庄用水
- ② 辰巳用水
- ③ 西内惣構跡
- ④ 西外惣構跡
- ⑤ 東内惣構跡
- ⑥ 東外惣構跡



休憩館
(観光案内所)

① 大野庄用水

現在の取水は旧庄川橋の上流石段で、河川敷を暗渠で通り新橋上流で開渠となる。長町武家屋敷周辺を経て犀川河口に注ぐ。延長約10.2kmの用水である。鬼川、御育川とも呼ばれ、金沢城を築くときに、城下まで木材を運んだとも伝えられる。

③ 西内惣構跡

慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に謀反の疑いをかけられた際、菅野高山右近に命じて築らせたといわれる金沢城の西側の防壁ライン。惣構は堀や土塁による防壁施設であり、尾山神社から尾張町を経て浅野川へまで、約1.6kmにおよぶ。現在の浅野川1号土留門では取水溝として当時の遺構を見ることが出来る。

⑤ 東内惣構跡

慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に謀反の疑いをかけられた際、菅野高山右近に命じて築らせたといわれる金沢城の防壁ラインで、内惣構の外側を走る。本多利3目から香林坊を通り長町の犀川用水に注ぎ、犀川川上と共して浅野川まで、約2.2kmにおよぶ。城下に土居を張り、竹藪などの緑地帯を設計していた。

② 辰巳用水

寛永8(1631)年の大水の翌年、3代前田利常が金沢城内に引水するための板屋敷西側に命じて造らせたといわれる用水で、玉川上水、御養用水などとともに、国内有数の古い用水である。また、第六園の曲水の主要な水源として利用されている。平成22(2010)年に、東若菜水(打上辰巳町)から第六園までの約11kmのちんねり路が変更されている。約8.7kmの区間の史跡が指定された。

④ 西外惣構跡(一部、鞍月用水)

慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に謀反の疑いをかけられた際、菅野高山右近に命じて築らせたといわれる金沢城の外側の防壁ラインで、内惣構の外側を走る。本多利3目から香林坊を通り長町の犀川用水に注ぎ、犀川川上と共して浅野川まで、約2.2kmにおよぶ。城下に土居を張り、竹藪などの緑地帯を設計していた。

⑥ 東外惣構跡

慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に謀反の疑いをかけられた際、菅野高山右近に命じて築らせたといわれる金沢城の外側の防壁ラインで、内惣構の外側を走る。本多利3目から香林坊を通り長町の犀川用水に注ぎ、犀川川上と共して浅野川まで、約2.2kmにおよぶ。城下に土居を張り、竹藪などの緑地帯を設計していた。

行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

高岡市 日本遺産と旧町名副読本



行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

高岡市 江戸時代末期の高岡町

旧町名ってなに??



旧町名とは

昔の高岡市の町名には住んでいた人たちの職種をあらわす「油町」や「精屋町」、土地の形や位置をあらわす「立横町」や「上川原町」などがあり、町の特徴がとてわかりやすい名前がついていました。

ところが、訪問先を探し当てたりの郵便物を配達するのが困難だったため、昭和37年、「住所表示に関する法律」が制定されると、高岡市でも昭和41年から昭和52年にかけて、たくさんの旧町名が簡町名へと整理・統合されていきました。

また、「旧町名」は過去の歴史や文化を伝える大切な文化遺産です。現在、高岡市をはじめ、全国で旧町名復活へ向け取り組みを行っている地域もあります。

旧町名の由来やその町のエピソードを知って、高岡町民の文化を垣間見てください。もしかしら自分たちの知らない高岡の歴史に出会えるかもしれません。

わたしの町には
どんな名前があったのかな



加田町長公器



若園寺



「日本町」とは
表町から移り住んできた荘園には、建物を取り壊すため土地が材料と確保されて土地が放棄される特徴が多かった。このように土地を確保しきれず、移住してきた町を本町と呼びます。

「地子町」とは
一面一邸宅によって築造した高岡を高くする町へと再建させるために、三代藩主徳川頼房は町人の居住を禁止し、御膳所・陣屋などを創設。商工業が盛んになり人口が増加するとともに土地（町）の無秩序な高岡への町移り（土地）が増えやすくなりました。これを地子町と呼びます。

「日町」とは
町の中心の堀川をここに設置する時は、人口が増えたり、甚だしく区画整理された。

大昔は、町の境界も
名前も違ってたんだね!



「地子町」は町、高岡町の発展は安永6年(1797)中興藩主徳川頼房(用土益富)の町政刷新による。
「高岡市役所」は昭和39年(1964)高岡市の町政刷新による。
「高岡市公署」は昭和52年(1977)高岡市の町政刷新による。



「本町」とは

各地から移り住んできた町民には、建物を建てるための土地が無料で提供されて土地代が免除される特権が与えられました。
 このような土地を役地といい、役地にできた町を本町といいます。

- 横町 関町 二丁町 下川原町 袋町 小馬出町
 御馬出町 定塚町 通町 坂下町 川原上町 片原町
 堀上町 梶原淵町 鴨島町 源平板屋町 平米町
 開発町 白銀町 土器町 木町 油町 下桶屋町
 桶屋町 千木屋町 槍物屋町 旅籠町 博労堂町
 利屋町 風呂屋町 木舟町 守山町 三番町 二番町
 一番町 計35町

「地子町」とは

一国一城令によって衰退した高岡を商工業の町へと再生させるために、三代藩主利常は町人の転出を禁止し、魚問屋・塩問屋などを創設。商工業が繁栄し人口が増加するとともに地子地（家臣たちの屋敷跡で高岡への地税を課せられた土地）に家が建てられました。これを地子町といいます。

- 上川原町 中川原町 一番新町 二番新町 立横町
 地子木町 片原中島町 片原横町 白銀後町 大工町
 大工中町 大鋸屋町 蓮光寺門前 神主町 鴨島下町
 教恩寺下町 橋番町 横川原町 計18町

「散町」とは

町の中心から離れたところに散在する町は、人口がわりやすく、散町として区別されました。

- 横田町 中島町 金屋町 母衣町 純手中町 純手下町
 宮脇町 新横町 横田新町 計9町

行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

高岡市 旧町名の復活

2015年4月

2つの町名が
復活しました!

近年、歴史や文化を伝える大切な文化遺産でもある旧町名を忘れてはいけないと、全国で復活に向けて運動が行われはじめました。

石川県金沢市では平成11年に全国初の旧町名復活となった「主計町」をはじめ、今までに11の旧町名が復活しています。

高岡市では平成23年に「歴史都市」の認定を受けて、旧町名復活へ向けた取り組みを始め、平成27年4月に2つの町名が復活しました。

❁ 職種を表す町名

平米町 〈ひらまいちょう〉

◆ 町名の由来

砺波郡常国村の百姓長兵衛などが開いた町で、初めは「平吹町」といいましたが、1681年、「平米町」になりました。藩の作業に携わる者が多く、その報酬として与えられる米を「お平米」といったことによります。



❁ 道の役割による町名

袋町 〈ふくろちょう〉

◆ 町名の由来

高岡が開町した時からの本町で、横町、平米町の西側にあり、両町に並行して延びています。

町の形が細長く、その昔は出入り口が1か所しかない袋小路のようだったことから名付けられました。1967年まで袋町の名前が使われていました。

1704年頃、すでに警備のための「木戸」が2か所に設けられていました。

行動計画のシナリオの動かし方

事例：旧町名の活用

甲府市 旧町名マップ



ご静聴、ありがとうございました。

『行動計画』をもつことの必要性と、『シナリオの描き方』に続き、
行動計画をどのように実践に繋げるか・・・
『行動計画のシナリオの動かし方』のヒントと事例
についてお話致しました。

ご質問等はいつでも下記へご連絡ください。

hisakokonno@gmail.com

hkonno@main.teikyo-u.ac.jp